

**サラヤ株式会社 御中**

**国名：ウガンダ共和国**

**事業名：ウガンダ北部 南スーダン難民の子ども  
とその家族を対象とした保健と衛生事業**

**完了報告書**



**2015年2月**

**公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン**



## 1. 事業概要

事業名	ウガンダ北部 南スーダン難民の子どもとその家族を対象とした保健と衛生事業
対象国・地域	ウガンダ共和国アルア県及びアジュマニ県
事業期間	2014年8月 - 10月 (3ヶ月)
予算	1,000,000円
受益者	子どもや大人3,800人以上
事業目的	武力紛争が原因で国外に逃れた南スーダン難民を受け入れているウガンダ北部にて、子どもとその家族を対象に保健衛生事業を実施し、南スーダンで発生したコレラの蔓延を未然に防ぐ。

## 2. 事業の成果

活動を通じて育成した生徒（保健委員）や村の保健ボランティアが、学校や地域の集会場、子どもたちが集まる子どもセンターにおいて、3,800人を超える人々に保健衛生に関する啓発活動を行いました。その結果、一時滞在センターや避難定住地で生活する人々の衛生に関する知識が向上し、日々の行動にも前向きな変化が生じています。具体的には、手洗いの励行や食事の衛生的な管理、適切なトイレの使い方などを実践する人々が大幅に増加しています。

また、保健ボランティアの存在は、難民キャンプ内で着実に認知されており、彼女らに対し保健に関する相談を持ちかける人々の数も増えています。

一方で、事業期間中に、15基のトイレを設置した結果、全戸数に対するトイレ普及率が、36%から40%に増加しました。周辺住民はトイレを利用するようになり、住民の生活環境が改善するとともに、し尿を媒介とする感染症に対するリスクが大幅に減少しました。なお、2014年9月以降、事業地においてコレラ発症例の報告はありません。

## 3. 活動進捗

### 活動1. トイレの設置（アルア県）

トイレの絶対数が不足している結果、多くの人々が居住地の周辺や食糧生産の場所等の身近な生活環境で排せつせざるを得ない等の問題が起きているアルア県内の難民定住地において、15基のトイレの設置を行いました。

トイレを設置する場所は、2014年7月に当会や国連機関により実施された調査を元に、コレラ等の感染症に対しより脆弱な、障がい者や老夫婦、若い子どもを抱える家庭などを優先的に選びました。

### 活動2. 学校の保健委員に対する保健衛生教育研修の実施（アルア県）

難民定住地内の学校に通う生徒のうち、保健委員20名に対し、参加型手法を用いた保健衛生に関する研修を行いました。彼らは研修を通じて、保健衛生に関する基礎的な知識のほか、手洗いなど日々の生活で実践すべき習慣について学びました。また、それらの知識を学校や子どもひろばに集う子どもたちや地域住民に広めるために、創意工夫した寸劇や歌

の準備も行いました。さらに、啓発活動をいつ、どこで実施するのかを記載した活動計画も策定しました。

加えて、学校内のトイレや井戸などの施設を長期的に維持するために必要な管理体制の整備について、管轄する行政や地域の有力者に対し働きかけていくことでも合意しました。

### **活動3. 寸劇や歌等を通じた保健衛生に関する啓発活動の実施（アルア県）**

上記活動2の研修を受けた保健委員は、他の生徒や、地域住民に対し、寸劇を中心とした啓発活動を実施しました。啓発活動を通じて伝えた主な内容は以下の3点です。

- ① 安全な水の利用：地域ぐるみの井戸の適切な利用と、井戸水を入れる容器の洗浄の重要性等
- ② 安全なし尿処理：し尿を媒介とする感染症（赤痢、コレラ、チフス、住血吸虫症等）の紹介と、その感染の第一の防御策として、地域住民が協力してトイレを建設・管理する事の重要性について
- ③ 石鹼を使用した手洗いの推奨：コレラなどは死に至る可能性のある病気であるが、トイレ使用後や、調理・食事前、子どもに食事を与える前に石鹼を用いて手洗いをを行う等の簡単な活動が実は命を守ることにもつながることの紹介

これらの啓発活動を通じ、400人以上の住民や生徒の知識の向上に寄与しました。特に、各地域のリーダーへの働きかけを通じて、彼らの衛生に関する意識に変化がみられたことは大きな成果です。

### **活動4. ラジオ番組を通じた保健衛生に関する啓発（アルア県）**

地元のラジオ局の協力を得て、保健衛生に関するラジオ番組を四度放送しました。地元の保健局職員や定住地内の自治会のリーダーをパネリストとして、保健衛生に関連するトピックについて話し、その後聴者からの質問に答えました。番組で取り上げられたトピックは、保健衛生に関する基礎的な知識のほか、家庭・地域における衛生状態の改善に必要な行動とそれに関連する男女の役割、上水設備（井戸）の利用と維持を含む安全な水の管理などでした。

番組を通じて、合計17名から電話による質問を受け、活発な意見交換が行われました。なお、当ラジオ番組の電波が届く区域に住む人口は、約18,000人とされています。

### **活動5. 子どもひろば及びその周辺における衛生に関する教育（アジュマニ県）**

子どもたちが安心して学び、遊ぶことが出来る場所として難民キャンプ内に設置されている「子どもひろば」に集う子どもたちを対象に、村の保健ボランティアが衛生教育を計16回実施しました。

具体的には、コレラを代表とした経口感染する危険な病気について紹介し、その予防のためには適切な手洗いの励行や、食物及び水の安全管理、適切なトイレの使用が重要であることを説明しました。

子どもたちが子どもひろばの設備を使って学んだ知識を日々実践することで、手洗いなどの習慣化が効果的に進んだほか、トイレの清掃を積極的に行うなどの前向きな変化が起っています。実際に、自宅でも手洗いなどを行う子どもが増えているため、コレラに関する情報をまとめたパンフレット350枚を保護者に配布し、家庭内でも子どもの行動を理解し、協力するよう促しました。子どもの中には、自宅でも手洗いを行うため、簡易手洗い設

備の設置方法を習得する子もいます。

#### 4. 裨益者の声

「セーブ・ザ・チルドレンにトイレを建設して頂き、大変うれしく思っています。以前は1つのトイレを隣近所の人々と共同で使っていたため、特に早朝は人々がトイレの前で列を作るような状態でしたし、小さな子供は外で用を足すこともありました。でも今はいつでもトイレにいけるので、悩みが一つ解消されました。一緒に住む娘や孫も安心してトイレが使えると喜んでいます。

今後は、近所の子どもたちが屋外で排せつを行わないだけでなく、衛生的な状態を保つようにしっかりと管理します。また、トイレの清掃をしっかりと行うほか、トイレの周囲にマットを敷くなどして清潔に保つことを約束します。」

(アケー マヨルさん 78歳)

#### 5. 今後の展望

両県の事業地においては、今後セーブ・ザ・チルドレンを含む NGO や国連機関が事業の拡大を予定しており、トイレの建設及び生徒や住民ボランティアによる啓発などの本事業の枠組みは、引き続き活用される見込みです。

一方で、本事業を通して培った教訓も今後の活動に積極的に反映させる予定です。例えば、トイレの建設、上水（井戸）の整備、そして衛生教育をパッケージにして並行して行う方がより効果的であることや、障がいを持つ人が住む家庭にトイレを建設する際には、障がいを持つ人でもメンテナンスがしやすいような工夫をすることが挙げられます。

また、子どもたちを対象とした衛生教育は継続的に行われる必要があるため、あらゆる機会を活用して、今後も実施する予定です。

#### 6. 収支報告

活動費（衛生教育、モニタリング費、人件費を含む）	400,239
障がいを持った人も利用できる簡易トイレの設置	195,459
活動運営費用 （事務所賃料、現地スタッフおよび通信・車輛関連費用を含む）	204,302
東京本部管理費	200,000
合計	1,000,000

## 7. 活動写真



新規に建設されたトイレ



保健委員に対する研修の様子：コレラに感染する経路を学ぶセッション



他の生徒に対し、手洗いの方法を実演する保健委員



地域で寸劇を行い、衛生について啓発する保健委員たち



子どもセンターにおける衛生教育の様子



子どもセンター内の手洗い設備を利用する女の子